



議会だより

かたしな

発行 片品村議会

No. 159

2019. 1. 21



第3回片品村中学生議会に参加した生徒の皆さん（議場にて）

主 な 内 容

◆ 第6回定例会（12月議会）で決まったこと	2
◆ 条例の一部改正、陳情審議結果	3
◆ 常任委員会	4 ~ 5
◆ 行政視察報告	6 ~ 7
◆ 中学生議会、ようこそ有権者	8
◆ 議案内容及び議決一覧、議会活動	9 ~ 10

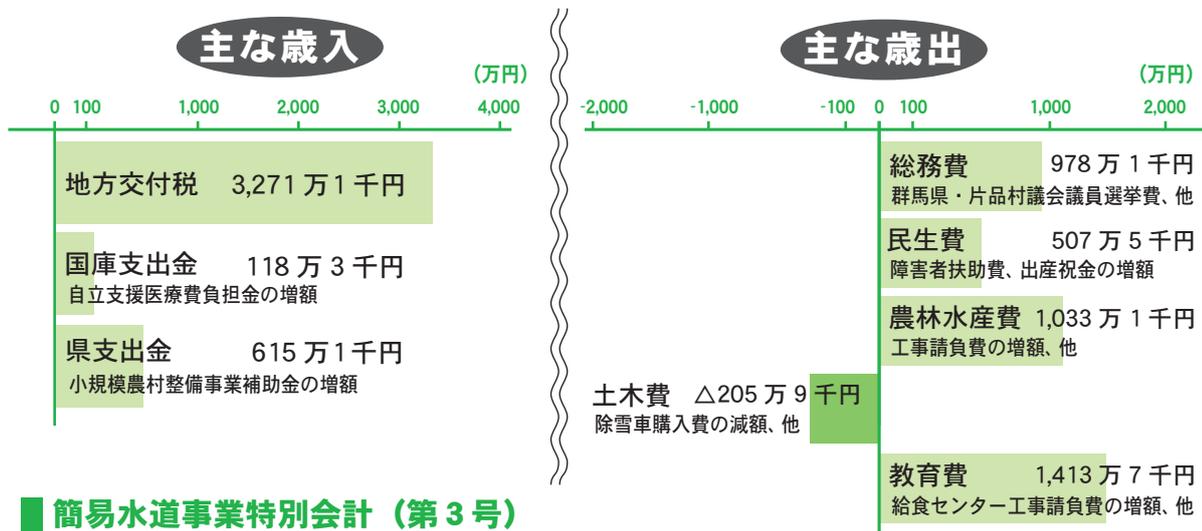
決ま った こと

平成30年第6回片品村定例議会（12月議会）を、12月7日～14日までの8日間にわたり開催しました。平成30年度一般会計補正予算、平成30年度特別会計補正予算、条例の一部改正等の議案が提案され、いずれも全員賛成で可決されました。

平成30年度12月各会計別予算の状況

会 計 名	補正額	補正後の額
片品村一般会計補正予算（第3号）	40,045 千円	41 億 9,827 万 4 千円
片品村簡易水道事業特別会計補正予算（第3号）	歳出予算振替	9,408 万 6 千円
片品村介護保険特別会計補正予算（第2号）	49 千円	6 億 1,580 万 8 千円
片品村下水道事業等特別会計補正予算（第3号）	歳出予算振替	9,774 万 7 千円

一般会計補正予算（第3号）



簡易水道事業特別会計（第3号）

主な歳出	総務管理費	△449 千円
	施設管理費	449 千円

下水道事業等特別会計（第3号）

主な歳出	総務管理費	89 千円
	施設管理費	△89 千円

介護保険特別会計（第2号）

主な歳入	国庫支出金	152 千円
	一般会計繰入金	△103 千円
主な歳出	諸支出金	49 千円

町村監査功労者として 入澤登喜夫さん（越本）が全国表彰

永年にわたり、片品村監査委員として地方自治の振興発展に貢献された入澤登喜夫さん（越本）が全国町村監査功労者表彰式で監査功労者として表彰されました。

入澤さんは、平成23年5月に片品村監査委員に選任され現在まで、2期8年の永きにわたり在職され、片品村行政の監査という重責を担ってきた功績が認められ、今回の受章となりました。

大変おめでとうございます。



12月定例会

条例の一部改正

※議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部を改正

人事院勧告に基づき条例の一部を改正するもの

※特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例の一部を改正

人事院勧告に基づき条例の一部を改正するもの

※片品村職員の給与に関する条例の一部を改正

人事院勧告に基づき条例の一部を改正するもの

※片品村印鑑条例の一部を改正

印鑑登録証明書について、外国住民の方でも比較的容易に印鑑の登録ができるように、条例の一部を改正するもの

人権擁護委員候補者の推薦

人権擁護委員、千明ふさ子氏（幡谷）が平成31年3月31日任期満了のため、引き続き、推薦することに同意を求められ、議会は全員一致で同意しました。

陳情審議結果一覧表

12月定例会において審議された陳情は、下記のとおり決定しました。

受理年月日	件名	陳情者	付託委員会	審議結果
平成30年 9月28日	「会計年度任用職員制度施行に伴う臨時・非常勤職員の地位・待遇改善を求める」意見書提出を要請する陳情	前橋市本町3丁目9-10 群馬県自治体一般労働組合 執行委員長 宮内 政己	総務文教 常任委員会	採 択
平成30年 11月8日	老人福祉施設増床にあたり施設建設費借入金の利子助成金を交付してください。	片品村大字摺淵340番地 社会福祉法人尾瀬長寿会 理事長 星野 恵美子	総務文教 常任委員会	採 択
平成30年 11月19日	国に対し「消費税増税中止を求める意見書」の提出を求める陳情書	沼田市横塚町42-1 沼田民主商工会 会長 林 正男	総務文教 常任委員会	不採択
平成30年 11月19日	レジ袋有料化を進める意見書の提出について	沼田市桜町2044 利根沼田明るい 社会づくりの会 会長 大嶋 正	観光産業 常任委員会	採 択

意見書の提出

国会及び政府に『会計年度任用職員制度施行に伴う臨時・非常勤職員の地位・待遇改善を求める意見書』、環境大臣及び県知事に『レジ袋有料義務化を進める意見書』を提出しました。



総務文教 常任委員会

協議事項

所管事務について

問 日本の人口減少は、結婚をしない、晩婚化、それに出産年齢が高くなっていくのが要因と思われるが、村の結婚支援事業を知りたい。

答（保健福祉課長）

平成22年度に花の駅、むらづくり観光課、社会福祉協議会の3団体で婚活イベントを行い、平成23年の夏には、丸沼高原スキー場ではバーベキューと流星群の観察ツアーを行っています。何回か支援事業をしたが現在は行っていません。理由としては、男女とも参加希望者の確保が難しい事です。

問 冬期間は道路の除雪等によって消火栓が埋まっていることが多々あるので、新設する場合は背の高いものをお願いしたい。

答（総務課長）

現在は30センチほど高くしています。あまり高くすると扱いにくいのではないかと思います。

るが、今後検討していきます。

問 村内にはヘリポートが何箇所あるのか。

また、ドクターヘリが着陸できる施設を増設できないか。

答（総務課長）

指定されているヘリポートは1箇所です。そのほか緊急避難的に使用できる旧南小のグラウンドがあります。もっと増設できれば良いのですが、条件もあるので広域消防等と相談しながら検討していきます。

問 中学生議会での質問や提案を精査してむらづくりに活かすことを考えているか。

答（村長）

中学生の目線で考えたこと等も非常に良いものがあると思います。それらを踏まえ参考にさせていただき、いろいろと考えていきたいと思っています。

問 冬の時期はふれあいサロンが少なくなっているのので、花咲の湯を活用し身障者や高齢者に楽しみと生きがいを与え、福祉、健康増進につなげてはどうか。

答（保健福祉課長）

現在実施している冬の事業は、身障者につきましては「七転び八起き会」というのがあり毎月1回行事を行っています。

高齢者につきましては、桜花苑に委託している「いきいきクラブ」が冬期間の健康づくりのため10月から3月まで事業を実施しています。

また、対象者を限定しない65歳以上の方の介護予防として「はつらつ体操教室」は年間を通して行っています。

今後は、社会福祉協議会をはじめ、各団体の方と新たな事業の取り組みや現在行っている事業なども検討して、健康増進の推進に努めていきます。



いきいきクラブの様子

問 今後、台風、猛暑日、集中豪雨、大雪などの自然災害が予想されますが、高齢者、生活弱者等の避難の手助けをするような組織はあるのか。

答（総務課長）

毎年5月頃地区別福祉会議を開催して、要援護者を確認し支援ファイルを作成しています。会議の内容は要支援者の方を誰がどこへ避難させるかというものです。

問 村内に人工透析をされている方は何人いるのか。また、一人あたりの医療費はどれ位か。

答（保健福祉課長）

直近の数値で15名の方が人工透析を受けており、1人年間450万円から500万円掛かっています。

問 入管法が改正になったが村内の外国人登録者は何名か。

答（住民課長）

12月1日現在32名で、中国、ベトナム、ネパールの順です。

（委員長 星野 精一）



観光産業 常任委員会

協議事項

所管事務について

問 道の駅・尾瀬かたしなと花の駅・花咲の湯との連携事業は何か考えているか。

答(むらづくり観光課長) 振興公社は、道の駅、花の駅、ほつこりの湯の3つの事業の連携が運営の基本であると考えています。現状で、花の駅とほつこりの湯ではスキー客や宿泊客の割引をしています。今後は各施設を訪れた方に他の施設で割引をするなど、相乗効果が高められるような施策を振興公社と協議を進めていきたいと考えています。

問 花の駅の従業員確保はどうなっているか。

答(むらづくり観光課長) 花の駅では、厨房と接客の従業員不足により一階の畳の大広間の食堂は営業を休止している状況が続いています。今後、人員が少なくても営業できるシステム等を検討したり、併せて

人員確保に向け、現在ハロワーワークを通して募集を行っているのですが、広く村内外に募集をしていきたいと考えており、振興公社で検討を進めています。

問 村道等に覆い被さっている木の枝について、台風などでもそうだが、これからの積雪により通行の妨げになりそうなものは事前に伐採できないか。

答(農林建設課長) 気になるところ等を地域で協力して伐採してくれている例もあります。また、村でも電線が近くにあつたりして大変なところは順次除去しているが範囲が広く、現状では対応しきれいでいけません。今後については、必要な箇所、危険な箇所については検討していきたい。

問 国道一二〇号からの道の駅の入り口と手前の急カーブについて、右折車線を造ってもらうとか、道路線の改良とかの要望はしているのか。

答(農林建設課長) この案件については、利

根地方総合開発協会の要望事項としてあります。

また、急カーブで見通しが悪く、大型車両等が道の駅を利用しづらく、小学校も近く、非常に危険な状態にありますので、安心、安全のために村としても強く要望をしています。

問 水道事業について、国会でも民営化がいいのか、公営事業でいくのか議論が出ているが、片品村の水道事業の現状と今後の課題を説明してほしい。

答(農林建設課長) 国会で水道法の一部が改正されましたが、趣旨は人口減少に伴う水需要の減少、水道施設の老朽化、人材不足等の水道事業が直面する課題に対して、基盤強化を図っていききたいという内容だと思っています。

片品村の現状は、ここ数年、水道本管が破損し漏水をしている箇所が多く見られ、その都度調査をし、順に修繕している現状です。今後も老朽化した本管を一気には直せないので随時修繕で対応していききたいと思っています。

国道一二〇号 菅沼工区(大崖)視察

国道一二〇号菅沼工区落石対策事業の現場視察を行い、沼田土木事務所鎌田事業所長から事業の進捗状況、昨年雪崩が発生した箇所の対策工事の概要を説明していただきました。



国道120号菅沼工区の説明



建設が進む菅沼工区の雪崩対策

(委員長 入澤 登喜夫)

総務文教常任委員会

～行政視察報告～



■視察の期間

平成30年11月14日～16日

■視察の場所

沖縄県石垣市

■視察の目的

- ①南の島になぜ若者は移り住むのか
そして、その為に行政が行ったこと
- ②学校給食における地場産食材の活用状況
- ③台風などの自然災害に対する事前対策
と危機管理はどのように行われているか

■視察の概要

石垣島は東京から1,952km、台湾から2,777km、平均気温は24.9℃の亜熱帯海洋性気候の島である。

人口は2017年で49,380人おり、毎年約100人の自然増がありますが、試算では2025～2030年を境に人口減少に転じるとされています。

石垣牛、パイナップルなどの特産を持ち、毎年130万人ほどの観光客が訪れる島です。

■視察の結果

「南の島になぜ若者は移り住むのか」ですが、2003年頃から移住ブームが始まり現在でも都内や本州で催される移住者相談フェアなどでは一番人気だとのこと。

「そして、その為に行政が行ったこと」ですが、石垣市移住・定住支援計画が平成29年度から5か年計画で始まっています。視察をし、実感したのは、移住者対策にはそれほど切迫感が感じられない

かつたということ。おそらく、これにはふたつの要素があり、ひとつ目は、移住から定住へのステップアップが難しいテーマであり、定住率はおよそ30%。この定住率をどう評価するかはそれぞれでしょうが、私は健闘していると考えます。

ふたつ目ですが、石垣市はUターン率が60%と高いことです。

このUターン層がこの先しばらくは続く人口増の柱であり、特殊出生率は2.20人、日本の自治体で8番目になります。

（片品村は平成29年度で1.22人、2.07人が人口を維持できる数値）

「学校給食における地場産食材の活用状況」ですが、活用はほとんどできていない状況との説明を受けました、調理時間が3時間しかなく、食数が多いので効率的にならざるを得ず困難とのこと。

「自然災害に対する対策」ですが、台風の通り道である石垣市は対策がかなり高い水準で実行されていると思えます。

その基本は自助、共助、公助。

瞬間最大風速が71メートルを記録される石垣市では、自らを守るという自助の精神が暮らしの中に組み込まれているのではないのでしょうか。

結びに、今回の視察から私達は何を学び、実行すべきでしょうか。

高いUターン率を支える要因のひとつに郷土愛を育む教育が行われていることは大きいと考えます。

私達の村も義務教育の中にこれから村が生き残り活力を維持するために戦略的に郷土愛を育む教育を組み込むべきではないでしょうか。

インターネットなどの発達は田舎の不利さを補います。生まれ育った片品こそが人生を豊かに送れる場所なのだと思える教育をこれから行うべきです。

給食の説明を受けて気になったのが、和食ほど食べ残しが多いことです。沖縄は世界に誇る長寿県でしたが、いち早く食のアメリ力化が始まり、

現在沖縄の男性の平均寿命は36位、社会保障費の右肩上がりの日本では健康寿命を長くすることが人生の質を高め国益に貢献するという認識の元、私達は食の日本回帰をする時代に入ったのです。

人間の健康を左右する大きな要素はやはり食であり、それも各民族が長い歴史の中から生み出した民族食が大切なのです。

そのような視点から教育を行っていくことを教育の基本にすべきでしょう。

今回の視察を糧として、これからも村づくりの力を注いでいくことをお誓いします。

（委員長 星野 精二）



観光産業常任委員会

～行政視察報告～



■視察の期間

平成30年11月5日～7日

■視察の場所

京都府宮津市

■視察の目的

観光振興について

- ①観光まちづくり推進事業
- ②観光客入り込み状況の推移
- ③優先して力を入れている観光素材
- ④インバウンドの状況

■視察の概要

宮津市は、京都府の北西部に位置し日本海を望み、南部と北部が日本三景で知られる特別名勝「天橋立」の砂嘴(さし)によって連なる特異な地形を有しています。また天橋立をはじめとする海岸線や大江山、世谷高原など貴重な自然資源が「丹後天橋立大江山国定公園」に指定されています。日本海側特有の気候に類し、年間降水量は比較的多く、冬季には日本海特有の「うらにし」と称されるしぐれが続ぎ、多くの雨や積雪がみられます。

江戸期には、北前船の西回り航路の寄港地として栄え、人口約18,000人、面積172.74km²で、米の食味ランキング特Aを獲得しているコシヒカリを主体として、花卉などの地域特産品、定置網漁業を中心とした沿岸漁業が営まれています。また、15年前から天橋立ワイナリーによるワイナリーが始められており、日帰り客が約80%を占めるが、外国人観光客3.5万人を含む年間約300万人の観光客が訪れています。

■視察の結果

宮津市は、総合戦略の基本目標(平成31年度)で観光交流人口300万人を掲げ、平成29年でこの目標を達成し、あわせて着地型旅行商品の造成により滞在時間延長から宿泊へ、6次産業化等で観光消費額の拡大等を目標に掲げ、「観光を基軸とした産業振興」により自立循環型経済社会構造への転換、「観光革命の推進」を進め、エコツーリズム等と天橋立プラスワンの展開によるリピート率の向上を目指しています。

また、重要な文化的景観等地域資源を生かした町づくりと観光コースの開発、天橋立の世界遺産登録推進などの「①日本の顔となる観光地づくり」。商品づくりの推進、特産品開発の支援などの「②外貨を稼ぐブランド「Made in 宮津」づくり」。海外旅行者受入れ基盤整備、京都市内からの外国人送迎バスの導入、スポーツ観光の導入などの「③誘客促進と外国人観光客の受入体制整備を行う観光革命の推進」を進めています。その推進体制として、観光協会、観光関連事業者などの観光プラットホーム「宮津市観光推進会議」、商工会議、農林水産業団体などの農工商観連携会議、各種まちづくり団体・協議会が連携・協力して進めていくこととしています。また、国際競争力の高い観光地域を形成し、天橋立だけでなく「海の京都観光圏」として、宮津市を含む京都府北部7市町で観光圏を形成し、観光圏整備実施計画認定地域(観光庁認定)として、全国13地域認定の1地域として観光消費額(外貨獲得)の拡大とともに、海の京都観光圏の中心として、日本の顔となる観光地を目指し、外国人観光客宿泊数を3.5万人(29年)から5万人までの増加を目標として、オプショナルツアーの開催、丹後きものまつり等のイベント開催、「丹後ちりめん回廊」「北前船寄港地・船主集落」の日本遺産認定などの施策を行っています。

あわせて、観光を基軸とした産業振興には、官民が連携した取組・仕組みづくりが必要であり、



・地産地消、6次産業化、・名物、土産品開発など、農工商観学官連携による産業活性化を、行政は黒子となり、民間、住民に、やる気を起こさせるように進めています。しかしながら、観光は、なかなか前に進まず、無理をせず、息の長い取組を進めていくことが重要であると考えているとのこと。日本三景「天橋立」を有し、それにプラスワンの展開を積極的に進めている状況は、片品村でも目指すべき一つの方向であると思われまます。尾瀬を核として、潜在する農産物、観光地の開発、商品化をさらに進めること。また、インバウンドの推進等の必要性を感じてきました。

(委員長 入澤登喜夫)

第3回片品村中学生議会 report.1

11月30日(金)第3回片品村中学生議会が役場2階議場で開催され、41名の生徒が議員となり活発な提案をしていただきました。

今回も保護者の方が傍聴し子供達の姿を見守っていただきました。

議会終了後、生徒に感想を書いていたいただきましたので紹介します。

1班

「私たちは観光について提案しました。」

今まで片品について勉強することはあったけど、提案することは始めてだったので新しいことを考えるのは想像以上に大変でした。より、効率よく実現するのに可能な提案を考えることは難しかったけれど自分たちの村を良くするために、たくさん考えることができて楽しかったです。

本番ではとても緊張したけど、班のみんなと協力してできたのでよかったです。

今回この勉強で私たちの片品村により深く興味をもちました。あまり知らなかったことも知ることができ、大人になってからもどのように村について考えて、どのように生活していけばよいかわかりました。そしてこの勉強をこれからに生かしていきたいです。

2班

「私たちは観光について提案しました。」

今回の中学生議会を通して、初めて片品の観光についてまじめに考えたと思います。議会で、道の駅についての不満を村長たちに自分の声で伝えられてよかったです。それについて村長じきじきに答えてくれるので、納得しました。私たちの提案が、村のためになると思うとやったかいがあるなと思いました。村へ関わらなくてもいいと思っていたけど、議会を通して村へ関わるのも悪くはないと思いました。

この経験を生かして、村に関わることにいろいろでてみようと思いました。

3班

「私たちは子育て・教育について提案しました。」

私たちは公園のことについて提案し、村長からいろいろそのことについて聞いた中で、地区の公園の遊具のことはその地区の人達にまかせていると聞き多少驚きました。村のことだから村が管理しているのかなと思いましたが、それぞれ私達の地区の人達が管理していると聞いて少し残念にも思いました。公園は親が安心して遊ばせる場、避難する場として設けているのももう少し整備してもいいのではと少し考えさせられました。

この機会を通していろんなことを考えさせられる時間になりました。

4班

「私たちは産業について提案しました。」

議会に参加するために片品村について調べてみて片品村の現状がわかり、何をしたら片品村のためになるのかを考えたものを提案して、それについて答えてもらえてもっと何をしたら良いかがよくわかった。全てやることは難しいけどできることを少しずつやっていければと思った。

他にも片品村にはいろんなものが足りていないと思った。このままでは片品村が消滅していってしまうのでみんなの活動で阻止していければいいなと思った。

5班

「私たちは福祉について提案しました。」

今回の中学生議会で、日頃自分たちが考えていた片品村についての提案などができてよかったです。自分たち中学生も議会に加わることができたのがとても良い経験になりました。

今まで自分は、村のことがどのように決まるのかなどを特に意識したことはありませんでしたが、今回議会の様子を身をもって感じて、村のことが決まるにはこんなに大変なことがあるんだなとわかりました。

なのでこれからはもっと片品村だけでなく議会などにももっと興味をもち、機会があれば積極的に関わっていければいいなと思いました。

Welcome
ようこそ ゆう けん しゃ
有権者

一人の有権者として

尾瀬高等学校3年1組 はる き
星 晴輝 さん



私は十八歳になり、選挙権を手に入れました。これまで選挙は、選挙権のない私にとってあまり関係ないことだったため、それほど深く選挙について考えてはいませんでした。しかし、十八歳になり一人の有権者として責任が生まれました。

現在日本では、選挙時の投票率の低さが問題となっています。その中でも若者の投票率の低さは深刻です。私も十八歳になるまでは、政治についてあまり興味を持ってきませんでした。そうした興味・関心の薄れが投票率の低さの原因だと私は考えます。その対策として、新聞やニュースを見るのが重要だと考えます。実際に私は新聞を読み、ニュース番組を見たことで、政治を含めた現代社会全体に関心を持つことができました。

これから私は大学に進学し、その後は社会人となります。社会のため、そして自分のために一人の有権者としての責任を持って日々暮らしていこうと思います。

町村議会議員研修会

平成30年10月26日(金)
吉岡町文化センター

- ① 町村議会議員の議員報酬のあり方について
講師 山梨学院大学大学院研究科長・法学部教授
江藤 俊昭 氏
- ② 真の地方創生と地方議会の役割
講師 早稲田大学公共経営大学院教授・元総務大臣
片山 善博 氏
- 以上について、2名の講師から大変わかりやすい講演をしていただきました。



町村議会議員研修会の様子

日光市議会との交流会実施

平成30年10月1日(月)～2日(火)、日光市議会・片品村議会交流会が日光市議会の議長、副議長をはじめとする9人の議員と片品村の議員9人が出席し、片品村役場において行われました。

講演会では、関越交通株式会社 代表取締役社長 佐藤俊也氏から「日光・尾瀬かたしなエクスプレス号を核とした広域観光活性化の取組み」について講演をいただきました。

また、交流会では、金精道路の通年通行、観光振興の連携等について意見交換を行いました。



講演会の様子



交流会に参加した両市村の議員

檜枝岐村議会との交流会実施

平成30年9月26日(水)、檜枝岐村議会・片品村議会交流会が栃木県宇都宮市において行われ、次の事項について協議を行いました。

1. 国道401号改良整備促進について
2. 今後の尾瀬と両村の観光について
3. 尾瀬の有害鳥獣被害について



檜枝岐村議会との交流会の様子

12月定例議会の主な議案内容及び議決一覧

議案番号	議案内容	議決結果	議員名	千明 勉	後藤 眞平	萩原 正信	星野 栄二	高山 悦夫	星野 精一	千明 道太	今井 功	入澤 登喜夫
議案第53号	議会の議員の議員報酬及び費用弁償等に関する条例の一部改正	全会一致 原案可決		○	○	○	△	○	○	○	○	○
議案第54号	特別職の職員で常勤のもの給与及び旅費に関する条例の一部改正	全会一致 原案可決		○	○	○	△	○	○	○	○	○
議案第55号	片品村職員の給与に関する条例の一部改正	全会一致 原案可決		○	○	○	△	○	○	○	○	○
議案第56号	片品村印鑑条例の一部改正	全会一致 原案可決		○	○	○	△	○	○	○	○	○
諮問第2号	人権擁護委員候補者の推薦	全会一致 原案可決		○	○	○	△	○	○	○	○	○
議案第57号	平成30年度片品村一般会計補正予算(第3号)	全会一致 原案可決		○	○	○	△	○	○	○	○	○
議案第58号	平成30年度片品村簡易水道事業特別会計補正予算(第3号)	全会一致 原案可決		○	○	○	△	○	○	○	○	○
議案第59号	平成30年度片品村介護保険特別会計補正予算(第2号)	全会一致 原案可決		○	○	○	△	○	○	○	○	○
議案第60号	平成30年度片品村下水道事業等特別会計補正予算(第3号)	全会一致 原案可決		○	○	○	△	○	○	○	○	○

※欠席議員は「-」で、議長は「△」で表示

議会活動日誌

10月

26日 群馬県町村議会議員研修会

11月

- 5日～7日 観光産業常任委員会行政視察
- 11日 道路愛護巡回督励
- 13日 片品村功労者表彰式
- 14日～16日 総務文教常任委員会行政視察
- 16日 県知事・県議会議長との懇談会
- 17日 須賀川バイパス開通式
- 21日 町村議会議長全国大会
- ” 豪雪地帯町村議会議長全国大会
- 22日 議会運営委員会
- ” 議会全員協議会
- 30日 第3回片品村中学生議会

12月

- 3日 国会及び防衛省視察
- 7日 片品村降雪安全祈願祭
- ” 第6回議会定例会(12月議会)開会
- ” 補正予算説明会
- 11日 観光産業常任委員会
- ” 総務文教常任委員会
- ” ホワイトワールド尾瀬岩鞍安全祈願祭
- 13日 利根東部衛生施設組合議会
- 14日 第6回議会定例会(12月議会)閉会
- ” 第1回議会広報編集委員会
- 19日 スノーパーク尾瀬戸倉安全祈願祭

1月

- 9日 消防団出初め式
- ” 新年賀詞交歓会
- 13日 第71回片品村成人式

発行 片品村議会

責任者 星野 栄二

編集 議会広報編集特別委員会

印刷所 笠原印刷(有)

かたしなフォトギャラリー



須賀川バイパス開通式



降雪安全祈願祭



片品村功労者表彰式

○傍聴のお知らせ

3月議会を傍聴しませんか! 次回定例会は、3月7日(木)の予定です。
 一般質問は、開会初日です。なお、一般質問の質疑応答(全文)は片品村公式ホームページ(HP)にて閲覧できます。HP掲載写真はフルカラーです。
 URL <http://www.vill.katashina.gunma.jp/>

議会広報編集特別委員会

- 委員長 萩原 正信
- 副委員長 千明 道太
- 委員 入澤登喜夫
- 委員 星野 栄二
- 委員 後藤 眞平
- 委員 千明 勉

編集委員長 萩原 正信

新年あけましておめでとうございます。昨年の夏は例年にならぬ猛暑で作物にも影響を与えた年でもありました。この冬も長期予報では暖冬ということですが、多くの降雪に恵まれますが、多くの降雪に恵まれないと思います。片品中学校の建設も昨年末に完成し、3学期から新校舎に引っ越しとなり、3年生は、卒業までのわずかな期間ですが新校舎で勉強ができて大変喜ばしいことと思います。その3年生が、昨年11月に第3回目となる中学生議会を開催し、その様子を傍聴しました、それぞれ、中学生目線の立派な考えを村長に質問していました、私たち議会議員として、とても参考となるが多く、将来の片品村をしっかりと担ってくれることと期待しています。

編集後記